

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 3 月 1 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300741		
	医療法人 北原会		
事業所名	グループホーム大野		
所在地	広島県廿日市市大野67番地1 (電話) 0829-56-3333		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473300741-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473300741-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○山々に囲まれ静かな場所にあり、鳥のさえずりや四季折々の草花を楽しむことができます。</p> <p>○当ホームの理念である「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」をキーワードに、穏やかな生活が送れるように、日々取り組んでいます。</p> <p>○季節の行事に合わせた、手作りの食事を提供しています。</p> <p>○個々の思いに寄り添い、豊かな生活の支援をいたします。</p> <p>○経営母体が病院なので、日々の訪問診療や緊急時の対応が出来ます。</p> <p>○外出や季節の行事への取り組みを計画し、快適な暮らしを支援してまいります。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム大野は、母体医療法人の病院に併設された事業所であり、医師を始めとする医療機関の多職種と連携しながら、日常的に発生する課題の解決を行っている。これにより、職員の研修や勉強会等は、グループホームの実情に合わせた、より専門的で必要な知識を得ることが可能となり、利用者のケアに活かされている。また、職員が利用者に寄り添い、寝たきりの状態になっても行事へ参加し、利用者同士で交流が継続できるような企画を提案し実践している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」この理念を玄関・廊下に掲示し、また全職員が名札の中に入れて振り返りができるように心掛けている。毎朝の申し送り時にも参加できる職員で唱和しており、この理念を元に作成した年間目標は今後も達成に向けて日々努力をしていきたい。	前回の外部評価受審後から、理念を礎に年間目標を設定し更に具体的に小項目を2つ設けて、理念の共有に努めている。利用者が精神的に不安定な時に、職員が寄り添い、利用者の話を聞いたり、落ち込んでいる利用者を明るく励ます声掛けを職員が行うなどの実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	家族・地域との交流の機会を少しでも広げていきたい思いはあったが、コロナ禍で実現が困難な状況になってる。今後、コロナ感染状況が落ち着いて来たら、イベントや会議などを通じて交流できる機会を持ちたい。	地域に住む職員や、地域ケア会議への参加、併設病院の外来患者から地域情報を得ることができる。地域に住んでいる独居高齢者を心配する内容や、グループホーム等の施設入居に関する相談が、年に10件程度寄せられ、地域の介護相談窓口として地域住民に認知され機能している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を、地域に還元したい思いはあるが、コロナ禍もあり積極的には出来ていない。入居相談の電話などで困りごとを聞いたときには、分かり易く助言をするように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、状況報告をするとともに家族、行政関係者、医療職などそれぞれの立場から積極的な意見交換をしているが、コロナ禍で、家族、行政関係者の出席が見送られたため、電話などを通じて情報収集をしたり、母体法人の職員と積極的に意見交換をしている。	直近1年間は、感染症予防の観点から主に法人の内部関係者が集まり、報告書を作成し市や担当地域包括支援センターに書面を送付している。転倒リスクが高い方や、精神面で不安定な利用者への対応方法について看護部長や病院の事務職員等の多職種の意見を取り入れている。	面会自粛や会議の招集、開催が難しく、事業所内部の様子が必然的に見えにくくなってしまいう状況下と言えます。多職種が連携して意見交換を行い、利用者の課題を解決している事や、職員の良い提案を取り入れ成功した行事等、家族とも情報共有ができる仕組み作りに期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍で、市主催のケア会議や研修会の中止、運営推進会議の行政関係者の出席見送りなどで、対面での意見・情報交換の場が減ってきているが、議事録の送付や電話などで情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。これからも協働関係を築いていきたい。	市が開催する集団指導へはリモートで参加し、運営推進会議の報告書をFAXで担当者に送付している。地域包括支援センターとは、相互に空き状況の報告と利用相談があり連絡を取り協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	なぜ身体拘束をしてはしてはいけないのか、何が身体拘束になるのか、研修や意見交換を通じて全職員が理解を深め、入居者の人権を守るという視点をもとに法人全体でもと組んでいる。施設の構造上施錠はしているが、状況に応じて柔軟に対応している。やむを得ず拘束をする場合には、身体拘束適正化委員会にて協議している。	法人内で研修を実施し、外部研修に参加した場合は参加者が事業所内で研修内容の伝達を行っている。身体拘束に係る委員会を3月に1度開催し、転倒リスクが高い利用者について、事故発生時の状況を確認し、医師、理学療法士、看護部長で分析し、対応方法を検討している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法を理解し、誰もがその視点を持ち、ケアに当たることが出来るように、今年権利擁護・虐待防止委員会を立ち上げた。委員会での意見・情報交換を伝達講習をするとともに、引き続き研修の機会を確保して、全職員で虐待防止に努めていきたい。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	コロナ禍で研修の機会が減っているが、オンライン研修や法人内研修を通じて、誰もが権利擁護や成年後見制度の理解と活用が出来るようにしていく。制度の活用が必要な時は、関係機関とも連携をして分かり易く説明をして対応している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には数多くの書類があるため、分かり易く説明をするとともに、相手に不安や疑問が生じていないか確認をしながら進めていくようにしている。また規約の改定等があれば、必ず書面を作成し、家族へ説明、確認を行っている。疑問や質問には丁寧に説明するように心がけている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の訴えには話しやすい環境の場を設定し、傾聴するとともに、施設内で対応策を検討している。家族とはコロナ禍で面会が難しくなっているため、電話や手紙を通じて本人の思いを伝え、家族からの要望を聞き、迅速に対応するように心がけている。また、外部の相談窓口も紹介している。	特段状態に変化がない利用者家族にも、定期的に電話で状況報告を行い、家族が衣類を届けに来た際等に意見を聞く機会がある。家族から状態が悪化した場合の相談が多く寄せられ、医師や看護師に報告を行い必要な対応を取っている。外出機会の減少から体操のバリエーションを拡大している。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時や昼休みなど自由に意見や提案を聞く機会を作っており、個別対応もしている。また月に1回のリーダー会議では、当日の勤務者も交えて活発な意見交換をしている。管理者は、提案された意見や要望をもとに今後の運営に反映させるように配慮をしている。	リーダー会議で利用者ごとの課題や介助方法を話し合う機会があり、当日参加できない職員の意見は事前に聞き取りを行っている。今年の豆まきは、力加減が難しい利用者へ配慮し豆をぼろろに変更し、居室で横になっている利用者もベッド上で参加できる提案がされ、実現した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員1人ひとり、勤務体制や契約条件が違うため、職員各人に応じた職場環境を整えている。また個々に合った研修を勧め、状況に応じて業務の見直しもしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず先輩職員の指導をつけ、職員各人の力量を把握し、誰が関わっても質の高い介護が出来るように日々、努力を続けている。また、全職員が、出来るだけ多くの研修に参加出来るように勤務も柔軟に対応し、施設内で、還元出来るように研修報告書を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で、外部研修やケア会議が中止になったり、オンライン研修が増えたことで、実際に会っての交流が難しくなっているが、今後も電話やオンライン研修を活用して、情報交換をしていき、サービスの質の向上に努めていく。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は、本人の不安な思いや要望をしっかりと受け止め、不安感が少しでも解消されるような信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	入居相談時から困っている事、不安に思っていること、要望などを傾聴し、ねぎらいの言葉を添えて、話しやすい環境作りをするとともに、入居後も密に連絡をとり、家族との関係性を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで相談をされた家族に、いろいろなサービスがあることの情報提供と共に、多職種とも連携して、本人、家族にとってより良いサービスは何かを共に考え、必要なサービス等を提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、今出来ていることを尊重し、寄り添い、見守りをしていき、関係性を深めていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との関係性が薄れていかないように電話や手紙で密に連絡をとり、一緒に本人の生活を支えていく関係性を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で、家族はもとより、友人、知人との交流が難しくなっているため、電話や手紙が中心の交流になっている。時には今までに交流した人との話を傾聴し、一緒に楽しかった時間を共有するように工夫をしている。	感染状況を鑑みて、時間制限を設け予約制で直接面会を実施できる期間もあったが、世情に合わせドア越しやリモートで面会が実施できた。リモート面会では機器の操作が難しい家族に職員が操作を手伝う等、円滑な実施ができるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の席の配置の工夫をすると共に、職員が間に入り、会話を楽しんだり、交流を促し、孤立せず、共に暮らしを楽しめるような環境作りを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退去することになった家族に対しても、引き続き、気軽に立ち寄れるように声かけをしたり、相談にのっている。また、母体法人の病院に入院になった入居者には適宜、面会して交流出来る機会を大切にしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話のなかで、出来るだけ本人の言葉を聞き出す工夫や、表情や行動から意向を汲み取るようにしている。時には、家族に在宅での様子を聞き取りをし、出来るだけ本人の思いが把握出来るように柔軟な対応をしていきたい。	何気なく発信される利用者の言葉は、ケース記録に記入し職員間で情報共有している。意向の表出が困難な方は、趣味や時代背景、生活歴、地域や普段の何気ない会話から好きな事を汲み取り、職員間で真意を考え意見交換や話し合いを行うことで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人、家族からの聞き取りや、利用していたサービスの情報を元にその人の生い立ちや育ってきた環境を理解し、これまでの生活様式を出来るだけ変えないような工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活歴をもとに、本人の1日の過ごし方を観察、記録をし、その情報を全職員が共有して、本人の有する力が十分に発揮できるようにミーティングを活用している。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護支援専門員を中心に本人、家族、関係者に聞き取りをし、担当者会議で意見交換、情報提供をしたことをもとに介護計画書を作成している。介護計画書は6ヶ月毎に更新をしているが、状況に変化があった時は、モニタリングを参考に速やかに担当者会議を開催し新たな介護計画書を作成している。</p>	<p>半年に一度モニタリングを実施し、計画の評価を実施している。半年毎と状態に変化があった場合に計画を見直している。利用者の意向を深く汲み取り、希望する暮らし方や、状態に応じた機能維持のための取り組みや、楽しみの実現を計画に盛り込み、実践できるように取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は個別のケース記録に記載し、その情報は職員間で共有すると共に介護計画書作成の参考にしている。また、申し送りノートには医療情報や介護の変更点など随時記載をし、リーダー会議で個別ケースの検討会も開催している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療ニーズに対しては、母体の協力医療機関との協力体制が出来ているので速やかに対応出来る。開かれた事業所として、地域との交流の場の提供など検討していきたい思いはあるが、実現に至っていない。今後も多機能化に向けて努力はしていきたい。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>多様な地域資源との協働が進んでいない状況の中にコロナ禍で、地域との交流の機会が減ってきている。今後の状況を見ながら、運営推進会議やケア会議、研修会を通じて、少しでも入居者の生活の質の向上に向けて地域とつながる工夫をしていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に本人、家族に、在宅生活でのかかりつけ医の継続か、協力医療機関がかかりつけ医になるのか意向の確認しており、途中での変更も可。夜間や緊急時でも適切な医療が受けられるように、協力医療機関が柔軟な対応をしている。</p>	<p>利用相談時から、かかりつけ医について利用者、家族の意向を確認し、希望する医師の診察を受けている。専門医の受診は、家族の協力を得ているが、緊急時と、継続的な受診が必要な場合は事業所が対応している。利用者の身体状況は看護師が家族に口頭で伝え医師へ伝達している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中での状態の変化や気づきは、すぐに看護師につなげる関係性が出来ており、看護師は協力医療機関の医師に報告し、早めの対策をとっている。休日・夜間など看護師が不在時も24時間、電話連絡が出来、必要に応じて、協力医療機関の看護師が本人の様子を見に来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護情報提供書や、介護計画書など必要な情報を提供し、本人の生活スタイルが大きく変化しないように病院と連携をしている。また、本人、家族の不安感が少しでも軽減出来るように面会に出向き、退院に向けての病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人・家族・主治医と重度化した場合の対応について話し合いの場を設けているが、実際に重度化、急変時には改めて意思確認を行い、今後の治療方針に本人・家族の意志が尊重されるように協力医療機関とも連携をしている。	利用開始時に重度化した場合の意向確認を行っている。継続的に医療行為が必要となった場合は、医師、看護師、事業所、家族間で方針を話し合い、希望に合わせ変更を行っている。今後は、地域の実情に即し事業所で看取りを行える体制整備を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に応急処置や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は看護師、協力医療機関の医師と24時間、連絡がつき具体的な指示がある。また、協力医療機関からの看護師の24時間の応援体制も確立している。急変時や事故対応をした時は、記録に残し、全職員が学ぶ機会となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、協力医療機関との合同避難訓練を実地しており、マニュアルを掲示すると共に、全職員が入居者の安全確保について意識を深めている。災害時も協力医療機関や近隣職員の応援体制やマニュアルの整備が出来ており、食料品や飲料水の備蓄もしている。	雨量が多い場合は、豪雨災害を想定し即時に母体医療法人と合同で防災対策委員会が開かれ、山側に居住する利用者を建物内の反対側へ移動し状況が安定するまで待機する対策が過去にも行われている。併設の母体医療法人と協力し食品や飲料水を確保している。	



自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の入居者の人格を見極め、自尊心を損なわないように言葉使いや見守り体制などに配慮している。また、排泄時や入浴時などは全職員が情報共有している手段を用いてプライバシーに留意した対応をしている。	接遇やプライバシーの研修は、複数回開催し全職員が参加できるように工夫している。排泄介助する場合は、職員はトイレの外で待つようにし、排便の確認は他の利用者に分からないように丸、バツ等のサインで行ったり、居室に戻った際に個別で聞き取る様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が思いや希望を気軽に話せるように時には居室で個別に傾聴している。言葉では十分に意思疎通が難しい場合は本人の表情や行動、何気ない会話の中でくみ取れるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴など、大まかな一日の流れは決まっているが、その時々状況に応じて出来るだけ本人の意向に沿うようにしている。特に余暇の過ごし方、趣味など、本人のペースに合わせた時間を過ごせるように工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナ禍で、家族との外出が難しくなっているため、服や化粧品など本人の希望を伝え、家族に依頼をしている。また、訪問理容の利用時は一緒に髪型について会話をしたり、毎日の化粧品や服選びなど、本人の希望に添えるように一緒に考えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	材料セットの食材を購入して、施設内で調理をしているが、嗜好調査や日頃の食事摂取状況により、献立の変更をしている。量や形態は各人のその日の体調に合わせて工夫している。調理や盛り付けは職員が行っているが、簡単な片付けやテーブル拭きなどは出来る範囲で手伝ってもらうこともある。	献立を廊下に掲示しており、利用者と職員間で話題にしている。行事では、ちらし寿司等の季節を感じられる献立を計画している。利用者の好みを聞いて、もみじ饅頭を購入したり、誕生日会には和菓子やロールケーキをコーヒート提供して、食べる事が楽しみとなるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分摂取量は毎日、記録に残しており、必要に応じて関係医療機関の医師や管理栄養士に助言をもらい、間食や栄養補助食品を活用することもある。また、毎月の体重測定や定期的な検査で栄養状態の把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時と毎食後に口腔ケアを職員の誘導で行っている。一人でのケアが難しい入居者には声かけ、介助をしている。義歯は専用の洗浄剤で、毎夕食後消毒をしている。必要に応じて歯科受診を勧めることもある。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>身体状況に応じて、ベッド近くにポータブルトイレを設置するなど、個々のパターンや時間を把握し、全職員が共有して、出来る限りトイレでの自然な排泄を支援している。</p>	<p>排泄は記録し、看護師と連携してパターンを把握している。利用者から排泄の訴えがあった場合と、食事の前後等にもトイレに誘い失敗を少なくする工夫をしている。ポータブルトイレや、ベッドの手摺、センサーマットを併用することで能力を活かし排泄の自立を支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便記録表を使用し、必要に応じて看護師に相談している。看護師は、腹部の聴診や水分摂取量などを確認し医師に報告、指示や助言をもらっている。また、ヨーグルトなどの食材利用や各人に合わせた水分補給を促すと共に、軽体操など便秘予防に向けた取り組みも心がけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決めているが、その日の心身状態に合わせ、曜日や時間の変更をして柔軟に入浴支援をしている。体調不良で入浴出来ない時は、清拭、足浴などで対応している。</p>	<p>安全面に配慮し、看護師を中心に利用者ごとに血圧や体温が安定している時間に入浴ができるように配慮し、入浴後の塗り薬等も管理している。入浴の誘いに嫌悪感を示す利用者には、声をかける職員の服装を変えたり、気分を盛り上げる工夫を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりの就寝時間、起床時 間に合わせ、声かけ支援をしてい る。快適に眠ることが出来るよ うに、空調、照明にも配慮して いる。また、適宜、昼寝も勧め ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬状況を記録に残して、飲み 忘れ防止に努めると共に、処方 された薬は申し送りノートや個 々のケース記録に、理由や用法 、副作用などの注意点を記入し 、情報が共有出来るようにして いる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ぬり絵、パズル、編み物、歌な ど好きな事に取り組んでもらう と同時に季節の行事を取り入れ て、変化のある生活支援を心が けている。また、洗濯物たたみ や作品作りの準備等の役割を持 ってもらい、一人ひとりの個性 を活かせるような支援をしてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>コロナ禍で外出が難しい状況が 続いているため、ホームの庭や 隣接する病院の中庭などを散歩 したり、庭の桜で花見をするな ど楽しんでいる。コロナの感染 状況が落ち着いたら、最優先で 外出の機会を持ちたいと考えて いる。</p>	<p>年間の外出を3月に1度の頻度 で計画していたが、感染症の流 行により止むを得ず中止した。 困難な状況の中でも、病院の中 庭に出て桜の花を鑑賞したり、 車いすの方も簡易スロープを利 用して外気に触れる機会を個別 に設けるように工夫している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>本人の状況や希望に則して、自 己管理の支援をしている。管理 が難しい方には、家族、成年後 見人等と話し合い、状況に応じ た対応をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍で家族や知人と会えない分、本人、家族にも手紙や電話でのやり取りを勧めている。また、施設内での様子や、行事の時の写真を家族に向けて送るようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には、季節感のある貼り絵や入居者、家族の作品、行事の写真などを展示し、庭には、四季折々の花が楽しめるなど、明るく心地よい空間作りを心がけている。また、空調設備・照明・カーテンで室温・明るさや光の調整を行っている。	食堂は照明器具と自然採光で明るく、自動販売機が設置されており、利用者が好きな飲み物を買う事ができる。また、春には敷地内の桜を眺めることができる。換気は日に5回、清掃は毎日職員が行っている。壁には職員と利用者が共同制作した、折り紙で作成した季節の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂ホールではテーブルごとに会話を楽しんだり、気の合った入居者同士で話ができる場所を確保している。また、居室内で、過ごしている時間が長い入居者には適宜、見守り、声かけ支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の希望や家族からの情報をもとに馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、それぞれがくつろげる工夫をしている。	利用者が使い慣れた籐の引き出しや、自宅に飾っていた掛け軸などを持参し、利用開始時に家族とも相談しながら居室に配置している。家具が転倒しないように配慮して設置を行い、各部屋温度湿度計を設置して職員の体感だけでなく計器で確認し居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・食堂ホールに取り付けている手すりにより、安全で自立した移動ができるように工夫している。現在介助Pパー使用者がいる。また、トイレや居室には表札や案内板をつけ、場所を明確にしている。		

V アウトカム項目( 1ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」この理念を玄関・廊下に掲示し、また全職員が名札の中に入れて振り返りができるように心掛けている。毎朝の申し送り時にも参加できる職員で唱和しており、この理念を元に作成した年間目標は今後も達成に向けて日々努力をしていきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	家族・地域との交流の機会を少しでも広げていきたい思いはあったが、コロナ禍で実現が困難な状況になってる。今後、コロナ感染状況が落ち着いて来たら、イベントや会議などを通じて交流できる機会を持ちたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を、地域に還元したい思いはあるが、コロナ禍もあり積極的には出来ていない。入居相談の電話などで困りごとを聞いたときには、分かり易く助言をするように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、状況報告をするとともに家族、行政関係者、医療職などそれぞれの立場から積極的な意見交換をしているが、コロナ禍で、家族、行政関係者の出席が見送られたため、電話などを通じて情報収集をしたり、母体法人の職員と積極的に意見交換をしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ禍で、市主催のケア会議や研修会の中止、運営推進会議の行政関係者の出席見送りなどで、対面での意見・情報交換の場が減ってきているが、議事録の送付や電話などで情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。これからも協働関係を築いていきたい。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	なぜ身体拘束をしてはしてはいけないのか、何が身体拘束になるのか、研修や意見交換を通じて全職員が理解を深め、入居者の人権を守るという視点をもとに法人全体でもと組んでいる。施設の構造上施錠はしているが、状況に応じて柔軟に対応している。やむを得ず拘束をする場合には、身体拘束適正化委員会にて協議している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法を理解し、誰もがその視点を持ち、ケアに当たることが出来るように、今年権利擁護・虐待防止委員会を立ち上げた。委員会での意見・情報交換を伝達講習をするとともに、引き続き研修の機会を確保して、全職員で虐待防止に努めていきたい。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	コロナ禍で研修の機会が減っているが、オンライン研修や法人内研修を通じて、誰もが権利擁護や成年後見制度の理解と活用が出来るようにしていく。また制度の活用が必要な時は、関係機関とも連携をして分かり易く説明をして対応していきたい。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には数多くの書類があるため、分かり易く説明をするとともに、相手に不安や疑問が生じていないか確認をしながら進めていくようにしている。また規約の改定等があれば、必ず書面を作成し、家族へ説明、確認を行っている。疑問や質問には丁寧に説明するように心がけている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の訴えには話しやすい環境の場を設定し、傾聴するとともに、施設内で対応策を検討している。家族とはコロナ禍で面会が難しくなっているため、電話や手紙を通じて本人の思いを伝え、家族からの要望を聞き、迅速に対応するように心がけている。また、外部の相談窓口も紹介している。		



自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時や昼休みなど自由に意見や提案を聞く機会を作っており、個別対応もしている。また月に1回のリーダー会議では、当日の勤務者も交えて活発な意見交換をしている。管理者は、提案された意見や要望をもとに今後の運営に反映させるように配慮をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員1人ひとり、勤務体制や契約条件が違うため、職員各人に応じた職場環境を整えている。また個々に合った研修を勧め、状況に応じて業務の見直しもしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず先輩職員の指導をつけ、職員各人の力量を把握し、誰が関わっても質の高い介護が出来るように日々、努力を続けている。また、全職員が、出来るだけ多くの研修に参加出来るように勤務も柔軟に対応し、施設内で、還元出来るように研修報告書を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で、外部研修やケア会議が中止になったり、オンライン研修が増えたことで、実際に会っての交流が難しくなっているが、今後も電話やオンライン研修を活用して、情報交換をしていき、サービスの質の向上に努めていく。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は、本人の不安な思いや要望をしっかりと受け止め、不安感が少しでも解消されるような信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から困っている事、不安に思っていること、要望などを傾聴し、ねぎらいの言葉を添えて、話しやすい環境作りをするとともに、入居後も密に連絡をとり、家族との関係性を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで相談をされた家族に、いろいろなサービスがあることの情報提供と共に、多職種とも連携して、本人、家族にとってより良いサービスは何かを共に考え、必要なサービス等を提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、今出来ていることを尊重し、寄り添い、見守りをしていき、関係性を深めていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との関係性が薄れていかなないように電話や手紙で密に連絡をとり、一緒に本人の生活を支えていく関係性を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で、家族はもとより、友人、知人との交流が難しくなっているため、電話や手紙が中心の交流になっている。時には今までに交流した人との話を傾聴し、一緒に楽しかった時間を共有するように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の席の配置の工夫をすると共に、職員が間に入り、会話を楽しんだり、交流を促し、孤立せず、共に暮らしを楽しめるような環境作りを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退去することになった家族に対しても、引き続き、気軽に立ち寄れるように声かけをしたり、相談にのっている。また、母体法人の病院に入院になった入居者には適宜、面会して交流出来る機会を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話のなかで、出来るだけ本人の言葉を聞き出す工夫や、表情や行動から意向を汲み取るようにしている。時には、家族に在宅での様子を聞き取りをし、出来るだけ本人の思いが把握出来るように柔軟な対応をしていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人、家族からの聞き取りや、利用していたサービスの情報を元にその人の生い立ちや育ってきた環境を理解し、これまでの生活様式を出来るだけ変えないような工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活歴をもとに、本人の1日の過ごし方を観察、記録をし、その情報を全職員が共有して、本人の有する力が十分に発揮できるようにミーティングを活用している。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員を中心に本人、家族、関係者に聞き取りをし、担当者会議で意見交換、情報提供をしたことをもとに介護計画書を作成している。介護計画書は6ヶ月毎に更新をしているが、状況に変化があった時は、モニタリングを参考に速やかに担当者会議を開催し新たな介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別のケース記録に記載し、その情報は職員間で共有すると共に介護計画書作成の参考にしている。また、申し送りノートには医療情報や介護の変更点など随時記載をし、リーダー会議で個別ケースの検討会も開催している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療ニーズに対しては、母体の協力医療機関との協力体制が出来ているので速やかに対応出来る。開かれた事業所として、地域との交流の場の提供など検討していきたい思いはあるが、実現に至っていない。今後も多機能化に向けて努力はしていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	多様な地域資源との協働が進んでいない状況の中にコロナ禍で、地域との交流の機会が減ってきている。今後の状況を見ながら、運営推進会議やケア会議、研修会を通じて、少しでも入居者の生活の質の向上に向けて地域とつながる工夫をしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人、家族に、在宅生活でのかかりつけ医の継続か、協力医療機関がかかりつけ医になるのか意向の確認しており、途中での変更も可。夜間や緊急時でも適切な医療が受けられるように、協力医療機関が柔軟な対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中での状態の変化や気づきは、すぐに看護師につなげる関係性が出来ており、看護師は協力医療機関の医師に報告し、早めの対策をとっている。休日・夜間など看護師が不在時も24時間、電話連絡が出来、必要に応じて、協力医療機関の看護師が本人の様子を見に来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護情報提供書や、介護計画書など必要な情報を提供し、本人の生活スタイルが大きく変化しないように病院と連携をしている。また、本人、家族の不安感が少しでも軽減出来るように面会に出向き、退院に向けての病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人・家族・主治医と重度化した場合の対応について話し合いの場を設けているが、実際に重度化、急変時には改めて意思確認を行い、今後の治療方針に本人・家族の意志が尊重されるように協力医療機関とも連携をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に応急処置や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は看護師、協力医療機関の医師と24時間、連絡がつき具体的な指示がある。また、協力医療機関からの看護師の24時間の応援体制も確立している。急変時や事故対応をした時は、記録に残し、全職員が学ぶ機会となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、協力医療機関との合同避難訓練を実地しており、マニュアルを掲示すると共に、全職員が入居者の安全確保について意識を深めている。災害時も協力医療機関や近隣職員の応援体制やマニュアルの整備が出来ており、食料品や飲料水の備蓄もしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の入居者の人格を見極め、自尊心を損なわないように言葉使いや見守り体制などに配慮している。また、排泄時や入浴時などは全職員が情報共有している手段を用いてプライバシーに留意した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が思いや希望を気軽に話せるように時には居室で個別に傾聴している。言葉では十分に意思疎通が難しい場合は本人の表情や行動、何気ない会話の中でくみ取れるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴など、大まかな一日の流れは決まっているが、その時々状況に応じて出来るだけ本人の意向に沿うようにしている。特に余暇の過ごし方、趣味など、本人のペースに合わせた時間を過ごせるように工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナ禍で、家族との外出が難しくなっているため、服や化粧品など本人の希望を伝え、家族に依頼をしている。また、訪問理容の利用時は一緒に髪型について会話をしたり、毎日の化粧品や服選びなど、本人の希望に添えるように一緒に考えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	材料セットの食材を購入して、施設内で調理をしているが、嗜好調査や日頃の食事摂取状況により、献立の変更をしている。量や形態は各人のその日の体調に合わせて工夫している。調理や盛り付けは職員が行っているが、簡単な片付けやテーブル拭きなどは出来る範囲で手伝ってもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は毎日、記録に残しており、必要に応じて関係医療機関の医師や管理栄養士に助言をもらい、間食や栄養補助食品を活用することもある。また、毎月の体重測定や定期的な検査で栄養状態の把握に努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後に口腔ケアを職員の誘導で行っている。一人でのケアが難しい入居者には声かけ、介助をしている。義歯は専用の洗浄剤で、毎夕食後消毒をしている。必要に応じて歯科受診を勧めることもある。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体状況に応じて、ベッド近くにポータブルトイレを設置するなど、個々のパターンや時間を把握し、全職員が共有して、出来る限りトイレでの自然な排泄を支援している。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表を使用し、必要に応じて看護師に相談している。看護師は、腹部の聴診や水分摂取量などを確認し医師に報告、指示や助言をもらっている。また、ヨーグルトなどの食材利用や各人に合わせた水分補給を促すと共に、軽体操など便秘予防に向けた取り組みも心がけている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴日は決めているが、その日の心身状態に合わせ、曜日や時間の変更をして柔軟に入浴支援をしている。体調不良で入浴出来ない時は、清拭、足浴などで対応している。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりの就寝時間、起床時 間に合わせ、声かけ支援をしてい る。快適に眠ることが出来るよ うに、空調、照明にも配慮して いる。また、適宜、昼寝も勧め ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬状況を記録に残して、飲み 忘れ防止に努めると共に、処方 された薬は申し送りノートや個 々のケース記録に、理由や用法 、副作用などの注意点を記入し 、情報が共有出来るようにして いる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ぬり絵、パズル、編み物、歌な ど好きな事に取り組んでもらう と同時に季節の行事を取り入れ て、変化のある生活支援を心が けている。また、洗濯物たたみ や作品作りの準備等の役割を持 ってもらい、一人ひとりの個性 を活かせるような支援をしてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>コロナ禍で外出が難しい状況が 続いているため、ホームの庭や 隣接する病院の中庭などを散歩 したり、庭の桜で花見をするな ど楽しんでいる。コロナの感染 状況が落ち着いたら、最優先で 外出の機会を持ちたいと考えて いる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>本人の状況や希望に則して、自 己管理の支援をしている。管理 が難しい方には、家族、成年後 見人等と話し合い、状況に応じ た対応をしている。</p>		



自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍で家族や知人と会えない分、本人、家族にも手紙や電話でのやり取りを勧めている。また、施設内での様子や、行事の時の写真を家族に向けて送るようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には、季節感のある貼り絵や入居者、家族の作品、行事の写真などを展示し、庭には、四季折々の花が楽しめるなど、明るく心地よい空間作りを心がけている。また、空調設備・照明・カーテンで室温・明るさや光の調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂ホールではテーブルごとに会話を楽しんだり、気の合った入居者同士で話ができる場所を確保している。また、居室内で、過ごしている時間が長い入居者には適宜、見守り、声かけ支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の希望や家族からの情報をもとに馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、それぞれがくつろげる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・食堂ホールに取り付けている手すりにより、安全で自立した移動ができるように工夫している。現在介助Pパー使用者がいる。また、トイレや居室には表札や案内板をつけ、場所を明確にしている。		

V アウトカム項目( 2ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム大野

作成日 令和4年4月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	グループホームの職員の指標となる理念の唱和が継続的に出来ていない。	①理念に沿った行動ができる。	1・2階とも日勤のリーダーが朝の申し送り時に声かけをして、参加出来る職員で理念の唱和をしていく。	R4年4月1日～9月30日 (6ヶ月毎に評価を行う)
			②理念のひとつの「傾聴」について個々の入居者に合わせた工夫をする	申し送りやミーティングで情報を共有し、月1回のリーダー会議で意見交換をしていく。	R4年4月1日～9月30日 (6ヶ月毎に評価を行う)
2	2	地域との連携、交流が充分に出来ていない。	①法人の病院と協議して地域との関わり・交流が出来る環境作りをしていく。	①ケア会議や外部研修などを通じて情報交換を行い、施設の取り組みを知ってもらう。	R4年4月1日～9月30日 (6ヶ月毎に評価を行う)
				②運営推進会議に地域住民が参加出来る体制作りをしていく。	R4年4月1日～9月30日 (6ヶ月毎に評価を行う)
3	49	外出や家族との交流が積極的に行われていない。	①年間行事計画をもとに外出や日々のレクリエーションの工夫をしていく。	①年間行事計画をもとに個別または少人数での家族同伴の外出を試みる。	R4年4月1日～9月30日 (6ヶ月毎に評価を行う)
				②家族と一緒に施設内で交流を楽しむことが出来る企画をする。	R4年4月1日～9月30日 (6ヶ月毎に評価を行う)
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。